

ドナーカードには家族の承認を表す、署名欄がある。

私の配偶者は臓器提供の意思を示してある自動車運転免許証を持っている。けれどそのカードにわたしの署名はなされていない。彼が「医学的に」死んで、ドナーカードがお財布から見つかったら医師はわたしに承認を得ようとするんだらう。

果たして、わたしは、彼の臓器を誰かに提供することを承認するのだろうか？

それは彼が「法的、社会的に」死んでしまうことを「始める」ことではないかと思ってしまうのだ。彼は「提供者の立場だけで考えてはダメだ、むしろ自分の子どもが移植を待つ立場だったらと考えたらどうするかを自分に問え。」という。

たしかにそうなのだ。そうなのだ。

今、誰かが、生命の危機にあり、家族が涙を流し、そして本人が死の恐怖と戦う日々を送っていることを思うと（矛盾しているのを承認で書くと）わたしは「自分」の臓器なら、死んでしまった後に灰になるだけのものが役に立つなら役に立てて欲しいと思う。しかし「家族」の死を前提に考えるとどうにもまとまらないのだ。

これは決してドナーの家族を批判するものではないのだ。今わたしが抱えている葛藤をこえて、臓器提供を承認することを選択されたその気持ちを思えば、言葉もないのだ。ただただ、わたし自身の問題として考えれば考えるほど、まとまらないのだ。

そして彼はわたしの署名の無いカードを持ち歩き、わたしは、来年の誕生日、新しくなった運転免許証の意思表示、1. にも2. にも、そして、3. にも丸がつけられず悩むのだ。

(主婦の方より)

家族の絆  
な何事も  
ずずーと  
き気長に  
のんびりと  
くよくよせず  
ぞく相談して  
か考えて

